



みとよし  
三豊市

11  
2019年  
月号  
No.34

# 議会だより

<http://gikai.city.mitoyo.lg.jp/>

## 9月定例会

- ②特集
- ④議案の概要
- ⑤審議結果
- ⑥議会事務事業評価
- ⑦一般質問
- ⑮委員会審査
- ⑯視察研修報告
- ⑳学校紹介

📷 三野町ソフトバレーボール大会

おしえて!!

# 議会って どうなってるの？

## 議会の「委員会」って なあに??



市議会には、市の問題を議員全員で話し合う**本会議**と、さらに専門的に調査し話し合う**委員会**があります。

三豊市には次の委員会があります。議員は少なくとも1つの常任委員会に所属しなければなりません。

**常任委員会** 総務常任委員会、市民建設常任委員会、教育民生常任委員会

**議会運営委員会**

**特別委員会** 市立病院建設調査特別委員会、議会広報委員会

### 議案の採決

議長を除く議員に、議案について、可決か否決かの意思を求め、多数決で議会全体の意思を決める。

### 本会議で 全議員に 対して報告

委員会での一連の審査について、委員長が報告。

### 委員会での審査

委員は採決の前に議案に対して、賛成または反対の意見を言うことができる。  
《採決》  
討論後、委員長は出席委員に議案について、賛成か反対の意思を確認し、委員会としての結論を出す。

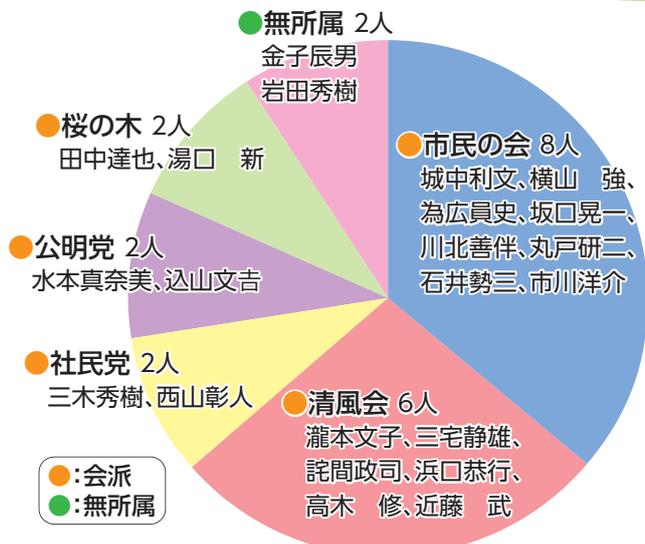
### 議案の説明

執行部より議案の説明。各所管の委員会に議案が振り分けられ、付託される。

基本的な「議案審査のながれ」について見てみましょう。



## 会派ってなあに??



議会の意思は多数決をもって決められます。議員は考え方や主張をより効果的に市政に反映させるために、同じ考え方や意見を持った2人以上の議員でグループを作って活動し、このグループが**会派**と呼ばれています。



ちなみに、三豊市の議員は**22名**です。その内訳を左のグラフで見ましょう。

次回は「委員会」について深く!!

本会議最終日

## 「市政に対する要請書」を提出しました

本市議会では、5月11日から6月1日にかけて、旧小学校区単位の市内26会場にて、議会報告会を行い、参加者の皆さまから、多くの市政に関する意見・要望をいただきました。

これらを各常任委員会において調査した後、重要項目を決定し、「市政に対する要請書」を市へ提出しました。項目は次のとおりです。

1. まちづくりについて
  - (1) まちづくりの方向性について
  - (2) 多極振興型まちづくりを支える市民の移手段について
2. 耕作放棄地対策の充実
3. 市道舗装整備の計画的な実施
4. 一人暮らしの高齢者の支援充実
5. 通学路の安全対策の充実
6. 宝山湖サッカー場の整備の充実



▲議長から市長に要請書を提出

### 議 会 日 誌

8月					7月										
13日	9日	8日	5日	31日	30日	29日	26日	22日	18日	17日	16日	11日	9日		
教育民生常任委員会	総務常任委員会	県離島振興市町村議会議長会	議会広報委員会視察研修(7日)	議会広報委員会視察研修(9日)	議会運営委員会視察研修(8月2日)	三豊総合病院企業団議会市立病院建設調査特別委員会	三豊総合病院企業団議会	教育民生常任委員会視察研修(24日)	教育民生常任委員会	教育民生常任委員会	教育民生常任委員会	市民建設常任委員会	市民建設常任委員会	市民建設常任委員会	
6日	5日	2日	31日	28日	27日	26日	21日	20日	19日	14日					
広聴会議	本会議(一般質問)	本会議(一般質問)	本会議	本会議	本会議	本会議	本会議	本会議	本会議	本会議	本会議	本会議	本会議		
16日	11日	7日	30日	27日	25日	24日	20日	19日	18日	17日	13日	12日	11日	10日	9日
三豊総合病院企業団議会	議会広報委員会	議会広報委員会	三豊市観音寺中学校組合議会定例会	三豊市観音寺中学校組合議会定例会	三豊市観音寺中学校組合議会定例会	三豊市観音寺中学校組合議会定例会	三豊市観音寺中学校組合議会定例会	三豊市観音寺中学校組合議会定例会	三豊市観音寺中学校組合議会定例会	三豊市観音寺中学校組合議会定例会	三豊市観音寺中学校組合議会定例会	三豊市観音寺中学校組合議会定例会	三豊市観音寺中学校組合議会定例会	三豊市観音寺中学校組合議会定例会	三豊市観音寺中学校組合議会定例会

## 防災訓練を行いました! 本会議最終日

「本会議中に震度7の地震に見舞われた」という想定のもと、議場にいた議員や執行部はヘルメットをかぶり、本庁舎の玄関前に避難しました。また、ケガをした傍聴者2人を担架で搬送し、救急隊に引き継ぐ訓練も行いました。



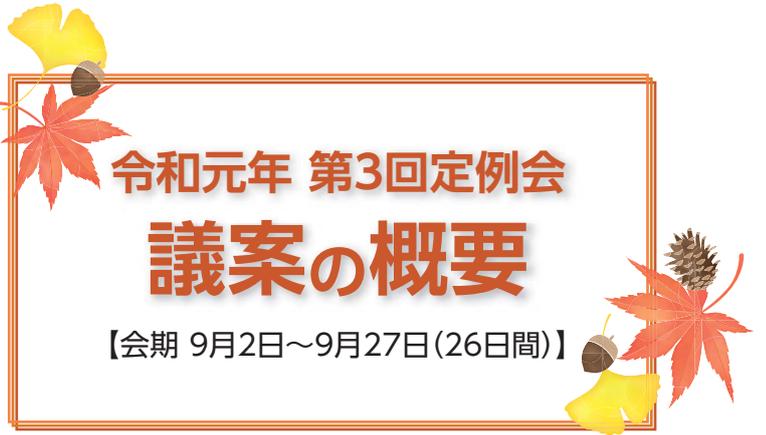
## 視察に来ていただきました

- 【スマート農業・鳥獣被害対策について】
  - 7月29日 京都府南丹市議会 産業建設常任委員会
- 【公共施設総合管理計画について】
  - 10月 7日 広島県三次市議会 行財政改革調査特別委員会
- 【バイオマス資源化センターについて】
  - 7月18日 大分県由布市議会 産業建設常任委員会
  - 7月24日 滋賀県湖南市議会 産業経済常任委員会
  - 7月25日 沖縄県沖縄市議会 日本共産党・会派群星全議員
  - 7月29日 島根県安来市議会 文教福祉委員会
  - 7月30日 愛知県田原市議会 文教厚生委員会
  - 8月 9日 富山県高岡市議会 産業建設常任委員会

今定例会では次のことが決まりました

- 平成30年度決算認定…………… 10件認定
- 令和元年度補正予算…………… 9件可決
- 条例に関する議案…………… 8件可決
- その他の市長提出議案…………… 3件可決
- 人事案件…………… 4件同意

主な議案をご紹介します。



## 令和元年 第3回定例会 議案の概要

【会期 9月2日～9月27日(26日間)】

議案  
Pick Up

議案第90号

市中小企業・小規模企業振興  
基本条例の制定について

可決

三豊市産業振興基本条例を全部改正し、中小企業・小規模企業の振興に焦点を当てた条例に改め、市民相互の共感、連携の下、中小企業・小規模企業の活性化と持続的な成長発展を促進し、地域経済の発展と市民生活の向上につなげるため、条例の制定が提案されたもの。  
また、この条例の制定に伴い、三豊市特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正するもの。

議案第93号

市印鑑条例の一部改正について

可決

住民基本台帳法施行令等の一部を改正する政令が公布されたことに伴い、印鑑登録における旧氏での登録に関する所要の改正を行うため、条例の一部改正が提案されたもの。

議案第94号

市立幼稚園預かり保育条例の一部改正について

可決

幼児教育・保育の無償化を規定した子ども・子育て支援法の一部改正に伴い、幼稚園預かり保育料の減免規定を設けるため、条例の一部改正が提案されたもの。

決算

認定

平成30年度歳入歳出  
決算認定

■一般会計

■特別会計8事業

- ・国民健康保険事業
- ・国民健康保険診療所事業
- ・後期高齢者医療事業
- ・介護保険事業
- ・介護サービス事業
- ・集落排水事業
- ・浄化槽整備推進事業
- ・港湾整備事業

平成30年度決算認定

■病院事業会計

決算審査の結果は、令和2年度予算に生かされます。



可決

令和元年度補正予算

補正

一般会計	887,305千円	増
	34,655,142千円	
国民健康保険事業特別会計	34,317千円	増
	8,247,317千円	
国民健康保険診療所事業特別会計	4,500千円	増
	157,500千円	
後期高齢者医療事業特別会計	1,259千円	増
	995,259千円	
介護保険事業特別会計	274,555千円	増
	8,336,744千円	
介護サービス事業特別会計	1,046千円	増
	101,467千円	
集落排水事業特別会計	106千円	増
	192,106千円	
港湾整備事業特別会計	1,330千円	減
	20,670千円	
病院事業会計	30,072千円	増
	2,207,698千円	

## 令和元年第3回(9月)定例会 審議結果

### ■全会一致の議案

議案名等	議決結果
平成30年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
平成30年度国民健康保険診療所事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
平成30年度後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
平成30年度介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
平成30年度介護サービス事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
平成30年度集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
平成30年度浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
平成30年度港湾整備事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
平成30年度病院事業会計決算認定について	原案認定
令和元年度国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)	原案可決
令和元年度国民健康保険診療所事業特別会計補正予算(第1号)	原案可決
令和元年度後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第1号)	原案可決
令和元年度介護保険事業特別会計補正予算(第2号)	原案可決
令和元年度介護サービス事業特別会計補正予算(第2号)	原案可決
令和元年度集落排水事業特別会計補正予算(第1号)	原案可決
令和元年度港湾整備事業特別会計補正予算(第1号)	原案可決
令和元年度病院事業会計補正予算(第2号)	原案可決
市離島振興対策実施地域における固定資産税の課税免除に関する条例の制定について	原案可決
市中小企業・小規模企業振興基本条例の制定について	原案可決
市消防団条例の一部改正について	原案可決
市職員の給与に関する条例の一部改正について	原案可決
市印鑑条例の一部改正について	原案可決
市立幼稚園預かり保育条例の一部改正について	原案可決
市子どものための教育・保育給付に関する条例の一部改正について	原案可決
財産の取得について	原案可決
財産の取得に係る変更契約の締結について	原案可決
訴訟上の和解について	原案可決
人権擁護委員候補者の推薦について(原田佳子)	原案同意
人権擁護委員候補者の推薦について(細川芳樹)	原案同意
人権擁護委員候補者の推薦について(秋山茂利)	原案同意
人権擁護委員候補者の推薦について(板倉順子)	原案同意
詫間地区の再開発及び整備促進に関する件	継続審査

※人事案件(敬称略)

### ■賛否が分かれた議案

議案名等	議員名																						議決結果	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
	近藤 武	高木 修	湯口 新	田中 達也	浜口 恭行	三木 秀樹	西山 彰人	水本 眞奈美	込山 文吉	市川 洋介	石井 勢三	丸戸 研二	岩田 秀樹	金子 辰男	詫間 政司	瀧本 文字	三宅 静雄	坂口 晃一	川北 善禪	城中 利文	為公 員史	横山 強		
平成30年度一般会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	原案認定 (賛20、反1)
令和元年度一般会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決 (賛18、反3)
市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決 (賛20、反1)

※○：賛成 ●：反対 欠：欠席 退：退席 除：除斥  
 ※議長は可否同数の場合のみ表決権があります。(議長 15番 詫間 政司)

## 議 会

# 事務事業評価

本市議会では、市のさらなる発展を目指し、議会独自に、市の政策8項目について評価を行いました。その結果は、議長から市長に提出し、令和2年度の予算編成に反映するよう、要望しました。その8つの事業の評価結果とその理由をお知らせします。

### ①工業用水道対策事業 **拡充**

今後の企業誘致、産業振興において、安定した工業用水が必要である。関係企業からの要望も強いものがあり、重要施策として計画的に取り組む必要がある。



### ②コミュニティバス運行事業 **拡充**

交通手段を持たない学生や高齢者等を支援するためには大変重要な事業である。高齢のため移動手段を失う人は、今後急増することが予想される中、しっかりと調査研究することが必要である。



▲コミュニティバス

### ③男女共同参画事業 **拡充**

三豊市男女共同参画推進条例は、「三豊市男女共同参画プラン」からつくりあげたものである。基本理念の第3条中に、①個人としての人權の尊重、②性別による役割分担の見直し、③性同一性障害を有する人その他あらゆる人の人權など、7項目にわたりそれらが位置づけられており、ジェンダー平等の課題と男女共同参画の取り組みは、別事業ではあるが、共同して取り組むべきものと考えている。



▲男女ネットワーク会議の様子

### ④荒廃農地等利活用促進対策事業 **拡充**

人口減少による担い手不足や有害鳥獣の増加、耕作放棄地の拡大など、さまざまな問題に直面している。荒廃農地の発生原因は、農業従事者の高齢化や担い手の減少が近年急増したことが原因である。荒廃農地を放置することは、周辺景観の悪化、病害虫の発生、有害鳥獣の生息範囲の拡大など、農業のみならず農村環境にも大きく悪影響を及ぼすものであるため、その解消のため、市が力を入れて取り組む必要がある。



▲荒廃農地

### ⑤市道舗装整備事業 **拡充**

市道総延長約1,080kmと長く市民が最も身近に利用する路線は、良好な路面を保つだけでなく、沿道環境の保全や車両の快適な走行が求められている。



### ⑥放課後児童クラブ運営事業 **拡充**

三豊市でも労働力不足があり、働きたくても子どもがいて働けない親が、安心して就労できるためにも、本事業の拡充が必要である。児童の発達障害児等に対応できる支援員、臨床心理士の正職員化および増員が必要である。



### ⑦学習ICT整備事業 **維持**

2020年度からスタートする新学習指導要領において「学校のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実に配慮」することが掲げられ、三豊市でも整備が進んでいることから本事業は維持すべきである。ICT利用時における子どもの健康障害等も考慮すべきである。



### ⑧永康病院運営事業 **拡充**

市民から愛され安心感を享受できる病院になるよう努力してほしいため、拡充と評価した。2022年の開院時に「依存症」に対応できる精神科医師の配置を求める。



▲病院建設用地

9月定例会では、9月5日、6日、9日の3日間、17人の議員が一般質問を行いました。質問順に要旨を掲載します。原稿は質問者本人が書いています。

# 一般質問



## 各課のプロポーザルについて

**問** 昨年6月の一般質問の回答では、今後のプロポーザルのあり方は、議会に諮り、審議する答弁が、今現在も無視した運営をしている理由を問う。

**答** 平成24年以降のプロポーザル方式により、手掛けた政策における契約は、総額17億2,300万円余りで、成果のない事業が2件で、1億9千万円となっている。(市長・教育長・各担当部長答弁) 横山議員から、昨年6月に一般質問で指摘があった後、今日まで各課において15件のプロポーザルを実施したが、その改善が図れていないことは重く受け止め、お詫びするとともに、痛切に反省したい。今後のプロポーザルは、事前協議も含め、適切に遂行するよう、改めて各部長に指示する。

**問** これまでの各課の審査員の選定と、採点の格差と、問題点と疑問点を問う。

**答** 審査員の選定や評価等はガイドラインの見直しと改善に努める。市民へのプロポーザル審査結果公表は、議員ご指摘の審査結果の

取り扱いが、必ずしも十分ではないので、後日に被疑を招くことのないよう、これまで以上に審議の透明性の確保に努める。

**問** 現行の審査員の選定を改め、行政関係者を外し外部者の専門有識者の委員会を取り組みをしてどうか、伺う。

**答** 審査委員会は、原則外部者による構成に努め、市職員の役職による選任は行わないものとする。

**問** 現行のプロポーザル方式は、今後、市政の財源を鑑みれば、行政と議会の英知で市政づくりをし、プロポーザルによる施策の支出の削減を図るべきではないのかを伺う。

**答** 議会対応については、重要な案件については、議会に対して特別委員会の設置をお願いするなど、議決案件はもとより、議決案件以外についても適切に示したい。



## 労働者の賃金と年金について

**問** 派遣労働の自由化などにより、非正規労働者が40%を超えている。一方、法人税率は30%だが、実効税率は17・59%、大企業は8%となっている。非正規など低賃金労働者の増加で、労働分配率は歴史的な低水準になっている。さらに、富裕層の最高税率「所得税と住民税を合わせた税率」は93%が55%に、株式などの収入は分離課税となるなど大幅に減税され、その結果、格差は拡大し続けている。

**答** 三豊市は指定管理と称して、多くの事業を民間に委託しているが、すべてが低賃金となっている。また、三豊市で臨時職員として雇用している労働者が会計年度任用職員として合法化された。このような、三豊市が関与できる職員の年金が30年後に生活困窮者を生むのではと思うので、見解を伺う。

**答** 5年に一度、厚生労働省が試算する財政検証によると、30年後に2割目減りするとなっている。国が年内に、関連法案をまとめるとしており、予測するのは大変困難であるのご理解を願いたい。

## 幼稚園の基準について

**問** 三豊市の幼稚園の基準によると、学区に1カ所、120人以上が望ましいとなっている。基準よりお金を優先しているのではないかと懸念している。

**答** 新たに検討委員会を設置し、これからの就学前教育・保育に関して、検討審議を重ねている。

**問** 豊中幼稚園は約250人の園児を抱えており、適正規模をはるかに超えていることは承知している。市民の声を聴きながら、考えていきたい。



▲ 250人の園児を抱える豊中幼稚園

## 公用車の安全装置の装着について

**問** 交通事故が多発している。運転する人が、安全運転に注意するのは当然だが、人の注意だけでは事故を減らすことができないとして、安全装置の開発や装着が進んでいる。三豊市の見解を伺う。

**答** 安全運転の啓発とともに、ドライブレコーダー等を順次装着する。



## 地域に合わせた公共交通の構築について

**問** Maasの実証実験がスタートする中で、地域にとって最適な公共交通ネットワークの実現を強力に推進する「地域公共交通網再編実施計画」の策定が急務であると考えるが、策定する予定があるのかを聞きたい。

**答** Maasはさまざまな移動手段やサービスを組み合わせる一つの移動サービスとして捉え、シームレスにつなぐ新たな移動の概念である。

本市においてはM-I-T-O-Y-O Maas PROJECTと題して、本年度から政策部を中心に地域



▲瀬戸内国際芸術祭 2019 粟島会場のグリーンスローモビリティ\*

交通のあり方の検討を開始している。

このような地域交通のあり方を検討する中において「地域公共交通網形成計画」を策定し、地域にとって望ましい公共交通網の姿を描くことは不可欠であると考えており、次年度からの計画策定に向けて現在準備を進めている。「地域公共交通網形成計画」は、まちづくりとの連携強化により持続可能な公共交通ネットワークの形成を図るため、平成26年の法改正において策定ができるようになっており、今後の交通政策のあり方や公共交通ネットワークを整備する、という宣言文にもなることから、この計画策定により交通政策のあり方や個別事業の実施の根拠を明確にしていきたい。

## 所有者不明土地の現状と対策について

**問** 全国的に空き地が増加している中で、「所有者不明土地」も年々増加していることが問題となっており、この問題は当局としてできる限り先手を打って解決すべき問題であると考えている。「所有者不明土地」の本市の現状把握と対策について聞きたい。

**答** 表題部所有者が正規に記録されていなかった土地は約5,000筆存在している。今後も積極的に相続登記啓発チラシを配布する等して勸奨に努めていきたい。



## 地域防災と学校の連携、および災害弱者の対応について

**問** 学校が避難所となる場合の市内の学校の取り組み状況はどうか。

**答** 学校防災マニュアルはあるものの具体的なものとなっていない。具体的マニュアル作成を推進する。

**問** 災害時の子どもや高齢者、乳幼児、障害者等、災害弱者への対応を聞く。

**答** 災害時に支援が必要な方は記録を進めている。福祉課で随時受け付けている。福祉避難所として13施設と協定済み。

## 激動の日韓関係の中での、友好都市韓国ハプチョン郡とのあり方について

**問** 香川県下唯一韓国との友好都市を持つ三豊市、何を学んだのか。何を達成したいのか。友好都市事業の評価を聞く。

**答** 市民や団体、事業者が互いに益のある交流を自由に行える環境づくりを目指している。市内中学生の海外派遣事業は、国際理解教

育の一環として互いに成長できるように、生徒間での交流を促していくことが国際交流の成果である。

**問** 友好都市縁組を見直し、他の都市との交流を考えないのか。

**答** 現時点においては、新しい都市との友好縁組は考えていない。

**問** 子どもたちの交流が、将来の日韓関係、わが市の友好関係に重要な体験になる。毅然とした対応をできているのか。

**答** 国際理解教育を高めていくことに取り組む。

**問** 日本と韓国の関係は良好ではない。納得いくような対応、きちんとした対応が子どもたち、次の世代に大きく感化する。できているのか。

**答** 互いを理解する姿勢で臨むが、今後の交流については、将来の両国関係やこれまでの交流を振り返り、引き継いでいくものと新しく取り入れていくもの、総合的に検討を重ねる。



▲ヨイド中学校 三豊市訪問

\*グリーンスローモビリティ…電動で時速20km未満で公道を走ることが可能な4人以上乗れる乗り物。導入により、地域が抱えるさまざまな交通の課題の解決や低炭素型交通の確立が期待されている。

\*シームレス…途切れないこと

\*国際理解教育…「世界の人々が、国を超えて理解し合い、協力し、世界平和を実現すること」を理念とした教育



財田川の整備について

**問** 近年、台風や集中豪雨により河川の氾濫が各所で発生している。財田川においても例外ではない。昨年度は江藤橋の下流域で堤防の決壊寸前までいったのやJRの鉄橋の橋脚が動いたり、大惨事になる一歩手前までいっていた。以前、お願いしていた河床整地の一部実施やダムの放水管理についてはお礼申し上げる。今回は財田川全域での河床整地と特に長瀬橋から樋留橋間の整備および樋留橋の架け替えについて、どのように考えられ県へ要望してもらえるのかを聞く。

**答** 近年の大雨による河川氾濫が招く災害が多発しているため、香川県が河川管理施設修繕事業として国の防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策に基づき、河道掘削工事を実施している。現在実施中以外の箇所も早期実施を要望している。樋留橋の整備についても財田川河川改修の計画を含めたうえで、早期橋梁整備ができるよう県と協議を進めていく。

宝山湖公園の整備について

**問** 本年度も第10回三豊市長杯宝山湖ジュニアサッカーフェスティバルが開催されたほか、年間2万3,000人ほどの利用がある。開設10年が過ぎ、芝の傷みもひどく張り替えやトイレの水洗化も必要と思うが、お考えを聞く。

**答** 小学生時代の一番の花となる全日本U12サッカー選手権大会の香川県大会が11月3日・10日に開催される。63チームが参加し全国大会を目指す。また第10回サイクルロード宝山湖も開催される。そのためにも、利用者の使いやすい、利便性の高い施設維持は必要不可欠と考える。地元をはじめ、水資源機構、香川県サッカー協会、また全国サッカー協会にも意見を求めながら事業推進に向けて協議していく。



▲宝山湖公園



公共施設再配置について

**問** 市民活動の場であるコミュニティセンターや公民館で、老朽化のため耐震強度のない施設が多くなる。公共施設を減らす計画の中、今後の計画を問う。

**答** 公共施設等総合管理計画において、必要な機能はできるだけ維持しながらも、公共施設の総量を減らし、持続可能な行政サービスを実現するという全体的な掲げ、今後の再配置の考え方を定めている。顔の見える地域サイズの地域コミュニティ拠点をイメージして、再配置に取り組む。



▲耐震強度が懸念される三野町公民館大見分館

夜間中学について

**問** 夜間中学は、義務教育を終了せずに学齢期を経過した者や、さまざまな事情により十分な教育を受けられない者に対して、教育を受ける機会を保障するための重要な役割を果たしている。国も設置を推進している中、三豊市としての考えを問う。

**答** 教育委員会としては夜間中学で学ぶことで、社会で生きる基礎を培うことは大切なことと認識している。地域や児童生徒の状況に応じて、さまざまな設置運営上の工夫が求められる。設置形態や設置場所、教職員の配置や研修、教育課程の問題など多面的に検討が必要。今後、香川県の動きや他の市町の動向を注視しながら研究検討していく。

ひきこもり支援

**問** 現在、ひきこもりが社会問題となっている。家族間のトラブル、地域内で孤立するなど、いろいろな悩みに苦しんでいる家庭がある。三豊市の現状と今後の対策を問う。

**答** ひきこもり支援に携わる人材の養成研修を開催し、当事者や家族とともに社会参加に向けた活動を支援できる体制づくりを検討している。また、広報紙等での周知啓発に努めるとともに、現在実施している事業を充実し、関係機関と協議、連携しながら支援に取り組んでいく。



## 交通インフラの整備について

**問** コミュニティバス、財田観音寺線の財田町黒川からJR琴平駅まで運行路線を延伸できないか。

**答** 福祉タクシー利用券の対象者へのアンケート調査を実施した結果、試行運行についての見込みが立ったため、令和2年4月から、JR琴平駅までの試行運行を開始することとし、準備に取り掛かりたい。



▲黒川地区で折り返し運転するコミュニティバス

**問** JR土讃線の讃岐財田駅のトイレが閉鎖されている。交通インフラとして、三豊市の事業として整備計画を樹立できないか。

**答** 駅利用者の大半を市民が占めていることから、今後のブランド

デザインの具体化作業の中で、市による設置の整備検討を進めたい。

## 公共事業の取り組みについて

**問** 公共事業の整備に必要な予算はしっかりと確保し、執行残を発生させずに執行し切るように、執行方法の研究と事業執行体制の強化が必要ではないか。

**答** 道路、橋梁、港湾などのインフラ整備は社会基盤において大変重要な位置付けである。来年度に向けて、組織の再編、人員の強化を図り、事業に取り組んでいく。

## Aーと地域振興について

**問** 財田町にAーの拠点が置かれていることを踏まえ、人材育成に加えて、農業振興分野などで具体的なチャレンジができないか。

例えば、財田では良質米の生産に取り組んでいる。ドローン映像をAーで分析し、病気や害虫の駆除がピンポイントできれば、安全・安心な農作物の生産につながると思うが。

**答** MAiZMが中山間地域にあるという特性を踏まえ、水稻栽培などの実証実験に速やかに取り組みたい。

また、隣接する医療機関や健康福祉分野にも可能性を求め、順次挑戦していきたい。



## 瀬戸内国際芸術祭とみとクエスト〜瀬戸芸の秋篇〜について

**問** 瀬戸芸粟島会場の集客目標と実現手法は。

**答** 2013年来場者数(3万人余)をベースとし、紙・ウェブ媒体に加え、みとクエストからの広がり(ラジオ番組・CM、チラシ2万枚、公式SNS)でプロモーションを強化する。

**問** 瀬戸芸の秋篇は、前回からどのような改善が図られているのか。

**答** 市内事業者によるサービス企画では、アプリ画面がクーポン提示でサービスが受けられるよ



▲みとクエ2019秋 チラシ

う変更。アプリについては、通信量軽減、登録操作の改善、会計時のQRコード読み取りによるポイント付加に加え、MAiZMの実証実験として、Aーを活用した港や駐車場の混雑状況案内機能を搭載した。

**問** 市職員など、関係者全ての発信力を活用すべきではないか。

**答** インフルエンサーとしての議員や市民の発信力に期待するところは大きい。検討していきたい。

## 公共交通対策について

**問** JR詫間駅のICカード利用開始を前に、市内事業者(主に公共交通)のキャッシュレス決済普及状況は。

**答** キャッシュレス・消費者還元事業への登録状況が、8月21日現在で、市内約50店舗、うち公共交通事業者は1社のみ。普及促進を図る。

**問** 交通弱者のラストワンマイル対策を、実証実験でも良いので早期実施できないか。

**答** グリーンスローモビリティという低速車で交通弱者の利便性を高める仕組みづくりの実証実験に取り組む。

※ MAiZM…人工知能で地域課題の解決にのぞむ三豊市の研究拠点  
 ※ インフルエンサー…世間に与える影響力が大きい行動を行う人物  
 ※ ラストワンマイル…公共交通機関から目的地までの間の移動手段



関係人口について

**問** 定住人口でもなく交流人口でもなく新たな人口概念の「関係人口」について、地方創生の名のもとにしているふるさと納税、移住政策を見ていると不毛な自治体間競争が見受けられるが、この人と人が関わりを持つ「関係人口」が今の社会に必要なものになると考える。今まで三豊市が取り組んできた移住定住促進事業やふるさと納税事業と「みとよふるさと住民票」と、今後どのように三豊市ブランドデザインにもある人口目標6万3,500人プラスにある「さらなる人口増加」と「交流人口・関係人口の拡大」に取り組んでいくのかを伺う。

**答** 総人口や労働力人口の減少や、高齢化率の上昇などは、全国どの自治体も抱える大きな課題となっている中、人口を奪い合う自治体間競争が激烈に展開されている。本市もこれまで移住・定住の促進や、本市の魅力発信し交流人口の増加に取り組んできた。市外の学生を対象とした「学生実習支援事業」は、平成23年からの8年間で約1,600人の学生が主にスポーツの合宿を通

して「みとよ」と関係を持ち、「ふるさと住民票」については、元阪神タイガースの数投手や岡コーチなど約90人が、本市に住まないながらも三豊への想いをもって「ふるさと住民」となっている。「ふるさと納税」については、今年8月末現在の寄附件数は昨年度1,711件に対して、今年度6,426件で約3.7倍、寄附額は昨年度3,280万円に対して、今年度1億1200万円と約3倍と順調に伸びている。「関係人口」を創出・拡大することにより、本市を訪れるリピーターが増えるだけでなく、都市で働く人の経験やスキルを活用した担い手として、地域課題の解決や新規事業の開拓、将来的な地方移住に向けた裾野の拡大など、新たな地域づくりに寄与するものと期待している。



▲関係人口の勉強会



学校給食における地産地消の推進状況について

**問** 市内における農業・畜産業・水産業のより一層の振興を図るためには、学校給食における地産地消の推進が重要な位置付けを占めると考える。

三豊市内の子どもたちが、安心・安全で新鮮な地元産の米・麦・肉・魚などを食べて成長していく。また生産者の方も安定した供給先を確保でき、この需要と供給のサイクルが確立されれば理想的な姿になると考える。

地産地消の現況と、数値目標を示していただきたい。

**答** 学校給食における地産地消の推進については、子どもが農業や農産物に親近感を感じる教育的効果も大きく、あわせて農業者の意欲を高めることにもつながり、重要な取り組みと考えている。

県が作成した第三次かがわ食育アクションプランによると、給食における県産品の活用割合目標が令和2年度で35.4%とされている。これに

対して三豊市では、平成30年度実績で38.2%となっている。三豊市産の使用率は同年度で13.1%である。

**問** 地元産品の選定から購入までのステップを教えてください。

**答** まず、栄養教諭が、食材情報や献立委員会の意見を参考にして献立を決定する。その上で、登録されている「学校給食用物資納入資格者」に、できるだけ市内産のものを採用できるように発注している。

**問** 購入品の最終決定権者はどうか。

**答** 最終決定権者は、献立の計画・決定は所長または課長であり、物資納入登録業者の承認は教育長である。



▲三豊市南部学校給食センター

※今年8月末現在…令和元年8月31日現在の速報値



## 地域公共交通網形成計画

**問** 交通網形成計画策定に取り組むとともに、地域公共交通バリア解消促進事業、地域公共交通調査等事業に取り組むべきではないか。

**答** 網形成計画の策定は将来に向けて市民が安心して暮らせるまちづくりであり続けるためにも必要不可欠なものであると考えており、来年度の計画着手に向け準備を進めている。

交通手段やインフラ等のバリアフリー化も進めなければならないと考えている。策定にあわせて地域公共交通バリア解消促進事業の活用を検討していく。デマンドタクシーなどの新たな移動手段の導入についても、市内事業者等の意見を伺いながら模索していきたい。衝突被害軽減ブレーキ導入車購入補助や既存車への後付け安全運転支援装置購入支援は、後付け装置についての性能認定制度の慣熟をめどに、ASVの購入補助とあわせ、自治体に取り組むべき方策を検討してまいりたい。最近の自動車には車線維持機能など自動

制御システムが搭載されている。中央線・外側線等の消えかかっている線の整備については、通行車両の安全性を確保する役割もあるのでスピード感を持って取り組んでいく。

## スポーツ推進計画と施設管理

**問** 文部科学省およびスポーツ庁より体育館の床板剥離による負傷事故の防止対策に関する取り組みの徹底についての通知が出されている。三豊市の取り組みを聞く。

**答** 文部科学省とスポーツ庁から体育館の床板の剥離による負傷事故の防止についての通知が出された。それを受け、職員による目視による点検を行い、体育館の床の維持に取り組んでいる。日常点検による早期発見に取り組むとともに、異常部分については迅速に対応していく。



▲剥離が心配される体育館床

## 子どもの貧困と子ども食堂について



**問** 市内の子どもの貧困への対策は。

**答** 平成29年度から子どもの貧困対策検討委員会を設置し、施策の内容を検討・決定している。また今年度から子育て支援課に子育て世代包括支援センターを設置し、切れ目のない細やかな対応に取り組んでいる。

**問** 子ども食堂へは今後どのような補助・サポートを考えているか。

**答** 立ち上げや運営の部分で側面的な支援は必要であると思っ

## 給食を活用した子育て環境意識の強いまちづくりについて

**問** A-1を活用した有機農産品を給食に活用しては。

**答** A-1は非常に農業との親和性が高い。そういうものにチャレンジするというのは非常に意義深い。全体的な社会の流れとしては

オーガニックの方に流れができてくる。これをなんとか三豊市でも引き込みたい。取り組む姿勢というものはあるということをご理解いただきたい。

## 健康ポイント事業、マイチャレかがわについて

**問** 全く盛り上がりを感じられないが現状と改善点は。

**答** 市内で一定以上のポイントを貯めて応募した人数は112名。市民の健康増進のためにも、魅力ある事業内容をどうやって広げていくかが課題。今年度から一定以上のポイントを貯めた方全員に三豊市商品券1,000円分をもらえるプレゼントする新たな取り組みを始めた。楽しみながらできる健康環境づくりに努める。



▲健康ポイント事業

## その他の質問

○人権教育・人権行政のあり方について

※デマンドタクシー…指定の場所から目的地まで、時間帯や乗降場所などの要望に応えられる予約制乗合タクシー  
 ※ASV…先進安全自動車



川北善伴  
議員



ブランドデザインと詫間地区再開  
発計画

**問** 市のブランドデザインと基本方針は。4つの基本方針とテーマを掲げているが、基本的な考え方は。また、気軽に行ける顔の見える地域サイズでの市民サービス拠点とは。

**答** 三豊ブランドデザインの基本的な考え方、基本方針は、これまでの考え方にとらわれず、基本的な考え方として、1点目は、三豊市の資源を新しい価値に変えるまちづくりに取り組む。2点目に、課題を突破する起爆剤として、まちづくりを推進する。3点目に、施設ではなく機能から発想するまちづくりへの転換。4点目に、市民と行政の新たな協働関係を構築すること。以上4つの基本的な考え方とした。

次に、気軽に行ける顔の見えるサイズについては、歩いて暮らせる約半径2キロ圏内の町の大きさを想定している。

**問** 詫間地区再開発計画のイメージとして、三豊の観光、産業を生み出していく、新たな海の玄関

口として観光交流・にぎわい創造拠点としていく構想となっているが。

**答** 詫間地区再開発計画のイメージは、三豊の入り口となる観光回遊の拠点と位置付けし、詫間庁舎周辺地区のサウンディング結果に基づき、JR詫間駅、マリノウエーブ、たくまシーマックス、詫間庁舎、讃岐造船所跡地、貯木場といった各ゾーンにそれぞれの役割を設定し、海と陸の回遊結節点とする。また、造船所跡地の環境そのものが集客力の源泉となり得る可能性を持つ場所であるということもサウンディング結果から把握しているところである。



▲造船所跡地 (2017年3月撮影)



坂口晃一  
議員



組織機能の強化策について

**問** 変化が激しい現況の中で市民に対する強化策を問う。

**答** 市民ファーストで施策の目的、計画、結果について説明責任を果たせる組織構築を目指す。

**問** 職員の能力が発揮できる組織化について。

**答** 情報収集を徹底させ、有益な補助事業、交付金事業に積極的にトライする。

**問** 守りの行政でなく、市民に対応できる組織について。

**答** 市民の満足度向上に努めるため、組織横断的業務執行に取り組む。

土地活用について

**問** 農地価格の暴落の原因は。山間部では10分の1に。

**答** 人口減少、土地需要の低迷等、また農地賃料の無償化傾向による。

**問** 農地集積と形状変更について。農水省予算で土地改良費はプラス18%増加。

**答** 農業生産基盤の整備、集落営農組織の強化を図る。

**問** 農地規制の緩和、転用促進、無断転用の整理、香川用水、

畑かんの整理、無断転用件数(高瀬地区で2,986筆)について。

**答** 農地規制緩和は国、県に強く要望する。無断転用案件については解消に向け努力する。

**問** 三豊市の農振計画について。

**答** 三豊市農業振興計画は本年度5力年が経過。中間見直しを実施中。

**問** 中山間の環境保全、竹資源の活用について。

**答** 荒廃竹林が森林体系を壊し、災害の発生誘因防止のため、森林多目的機能発揮対策、里山環境整備事業で取り組む。

公共施設の活用計画について

**問** 処分ではなく投資効果の計画は。

**答** 半分にして、市民の利益につながるように財産処分を進めていく。



▲荒廃竹林が環境破壊、対策を急げ

※サウンディング…民間事業者に広く意見を求め、対話を通じて市場性を把握すること



## 「ふれあいパークみの」改修工事について

**問** 昨年12月、指定管理者の指定時に改修計画はなかった。改修は、「指定管理者が変わるときは最大のチャンス」と言ってきた。

施設改修のリニューアルを開業前に実施するのは、オープン後のイメージを変えることができる。また改修期間を、新指定管理者の運営・宣伝や職員の研修期間とできる。指定管理者の指定時に、「ボイラーや発電機の交換をせずに指定管理を決定するのはおかしい。」と指摘。なぜ今になって、施設改修を実施か。空調・照明まで。年間の営業・経営計画を立案したのか疑問に感じる。

2014年に導入された「ある温浴施設」は森林資源を活用し、燃料費は約10分の1に減少した。環境に関する対応をどう考えているか。

今年度から、モニタリング・ガイドラインに基づいた取り組みがされているのか。

**答** 施設や設備の適正な機能の保全部は、施設所有者の市の責任である。建築後25年経過し、更新周期が来ており、市として判断した。

施設改修は、事後保全型であり継続的な施設運営などに不十分な点があり、今年5月公共施設日常点検ハンドブックを策定した。

利用状況は、4月から実施のモニタリングにより指定管理者が利用者へのサービス内容の順次追加を行っている。

地元の方の呼び込みは、前指定管理者の運営方法を踏襲し、新たな取り組みを行っていく。地元の皆さまが利用しやすくとともに新たな層への取り組みや利用料の見直しを含め検討している。

食事の品目が減ったとの声に対しては、段階的にメニュー数を増やすなど対応した。今後も品数を増やすなど検討、協議したい。

設備面での環境対応では、設備の更新は環境に配慮した機器の導入を視野に入れ検討したい。



▲ふれあいパークみの



## 地区防災計画・マイタイムラインについて

**問** 自治会等での地域の実情に合わせた地区防災計画策定の推進が災害対応の向上につながる。自主防災組織率と取り組みの現状を伺う。

**答** 平成31年4月1日現在で自主防災組織結成は73・69%で今後も組織化促進に取り組み、県の策定マニュアルを基に自主防災組織を中心に地区防災計画の策定推進に努める。

**問** 災害発生時の自らの行動計画を時系列で定めるマイタイムラインの推進状況を伺う。

**答** マイタイムラインは災害時の判断をサポートし、逃げ遅れゼロにつながるかと期待される。9月に避難行動マイタイムラインの講習会を計画しており、今後も策定に支援、啓発を行っていく。

## 喫煙、受動喫煙による健康被害について

**問** 受動喫煙防止対策を強化する改正健康増進法が2018年

7月に成立し2020年4月に全面施行される。庁舎、学校、児童福祉施設、病院など第1種施設の禁煙の取り組み状況は。

**答** 第1種80施設のうち77施設は完全敷地内禁煙となっており、市役所、永康病院、西香川病院の3施設は特定屋外喫煙場所を設置して対応している。

**問** 加熱式たばこによる健康被害の周知や2次・3次喫煙など受動喫煙対策の取り組みを伺う。

**答** 2月には国保だよりで特集記事を掲載し配布した。さらに市独自で受動喫煙防止ポスター300枚を作成し、公共施設、商業施設等に掲示ならびに広報紙やホームページ、庁舎の電光掲示板に副流煙の可視化映像や受動喫煙防止ビデオ上映など市民に分かりやすい受動喫煙防止対策に取り組み。



## その他の質問

○外国人対応の災害情報発信、防災訓練について

○公園における受動喫煙対策について

※マイタイムライン…これから起こるかもしれない災害に対し、ひとりひとりの家族構成や生活環境に合わせて、いつ、だれが、何をするのかをあらかじめ時系列で整理した個人の防災計画



三木秀樹  
議員

**7年前に決めた「取壊し」方針は、耐久年数が「有って」も行うのか**

**問** 7年前の方針に基づき、三野町の拠点にある文化センターが、一方的に老朽化が著しいと地元住民の要望も聞かず、取り壊す方向で動いている。また、突如今議会に、議会の関係委員会に、地元住民にも了解も得ず、その一階にある町図書館を、同町内の保健センター内に移設する「設置工事費」補正予算を出してきた。山下市長は、前市長の施策を強引に進めるのか。

**答** 平成24年の議会で承認され、尊重すべき計画との認識だ。計画に基づいた図書館の移転は地域代表等に理解が得られたことから予算計上した。

**問** 7年前のその方針は、前市長時の「地域内分権」拠点づくりの一環だ。その当時でも文化センターの耐久年数は2021年と明記。一方で現市長は今年度から5年間のまちづくり計画として「ブランドデザイン」をつくり、「これまでの箱物をつくる時代は古い」と、動く「図書館（トレジャーハウス）構想を出した。耐久年数が有り、壊さなくてもいい建物を「壊して」の図書館の移転工事。

一方で「動く図書館」を2023年までにつくる計画。地元住民の要望を取り入れ、現文化センターの耐震診断等を行い、数年使用する方が道理にあっていと思うが。

**答** 耐用年数によって判断している。では、まちづくりはできない。ブランドデザインとの整合性は、市民に丁寧に説明させていただき、手戻りしないよう進める。

**前市長と現市長施策とが矛盾するが**  
**問** どうしても理解できない。「使えるものを使用せず」古い方針。「箱物工事でなく動く図書館」新方針。住民の声を無視して、壊して税金の無駄遣いをする。今議会の三野図書館の移設工事補正予算取り下げませんか。



▲三野町「文化センター」1階は図書館

その他の質問

- 耐久年数過ぎた公民館問題
- 豊中幼稚園バス運行問題

## 委員会審査



### 総務常任委員会

9月11日開催の総務常任委員会には、7議案及び請願1件が付託され審査した。

主な質疑と答へ

令和元年度一般会計補正予算関係部分



▲粟島で実証走行しているグリーンスローモビリティ

**問** グリーンスローモビリティと呼ばれる低速で運転する電気自動車を、市内で実証走行させる目的は何か。

**答** まず車両通行の少ない粟島で実証を行い、データを収集するなどし、市内の公共交通空白地でも使用可能なか検証したい。

**問** 車両は貸し出しなのか運転手が付くのか。

**答** 瀬戸芸期間中は職員が運転を行い、それ以降は運行事業者に委託する方向で調整したい。

**問** 今年度ふるさと納税の見込みは。  
**答** 8月末現在で寄附件数が前年同期比で26%の6,851件、寄附金額が前年同期比で21%の1億810万5,664円である。

会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定について

**問** 保育士のクラス担任が新制度に移行した場合、基本賃金にクラス担任加算が含まれているのか。

**答** 基本賃金にはクラス担任加算が含まれている。

中小企業・小規模企業振興基本条例の制定について

**問** 本条例の対象事業者数はどの程度か。

**答** 市内企業2,033社のうち、029社が中小企業であり、対象となる。

請願第1号「三豊市詫間地区の再開発及び整備促進に関する件」

7月16日開催の委員会において、請願人代表から請願の趣旨補足説明を受けた。7月29日開催の委員会において、紹介議員から趣旨説明を受けた後、現地調査を実施した。8月13日開催の委員会において、請願5項目を1件ずつ審査することに決定した。9月11日開催の委員会において、閉会中の継続審査に決定した。

以上、各議案とも慎重な審査により原案どおり、可決した。また、請願については、継続審査とした。

## 市民建設常任委員会

9月12日開催の市民建設常任委員会には、5議案が付託され審査した。

### 主な質疑と答弁

#### 令和元年度一般会計補正予算関係部分

**問** 昨年度の災害箇所である詫間町糸之越地区の箱12号線の工事費に関する増額補正は、設計費のみか、工事費も含んでいるのか。

**答** 工事費も含んでおり、年度内の完了を目指している。



▲「糸之越地区」工事現場

**問** 隣保館の健康器具購入のための増額補正について、利用者は1日何人いるのか。

**答** 上高野、仁尾ともに1日7人から8人に利用いただいている。各館には使用簿を備えており、それを基に使用状況を把握している。



▲新しく購入する健康器具

#### 印鑑条例の一部改正について

**問** 今回の改正に関係する旧氏とは具体的にどのようなものか。

**答** 結婚する前の姓や養子縁組される前の姓のような以前使っていた旧氏のどれか一つが印鑑登録証明書に記載されるものである。

以上、各議案とも慎重な審査により原案どおり、可決した。

## 教育民生常任委員会

9月13日開催の教育民生常任委員会には、10議案が付託され審査した。

### 主な質疑と答弁

#### 令和元年度一般会計補正予算関係部分

**問** スポーツ文化芸術大会出場奨励金240万円増額の理由について。

**答** 各競技種目において好成績で活躍、全国高校総合体育大会へ、多数の高校生が出場するなど、想定を超えたためである。

**問** 中学生の夏休み映画スクールで制作した作品は非常によくできている。どのような形で公開されるのか。

**答** 教材としてさまざまなか場で広げていきたい。10月は中学生海外派遣と映画作りの報告会を同時開催し、放映する他、マリンウェブ・フェスタやさぬき映画祭、最終的にはYouTubeでも公開する予定である。

**問** 三野町図書館の三野町保健センターへの移転は、地元への理解を得ていない。やめさせてほしい。これまでの計画とブランドデザインとの整合性等どう考えるのか。図書館移転に伴う改修工事費2,717万9千円の補正予算に反対である。

**答** 平成29年の「三豊市公共施設等総合管理計画」の中で「三野町文化センターとふれあいセンターの機能は安全確保のため市民センターや社会福祉センターに機能移転し、老朽施設を取り壊す」と記されており、その方針に基づいて、取り組んでいる。移転については、地元協議会において地元合意を一定程度得た中で実施である。子育てに特化した図書館が保健センターにあることで、保健センターの機能が将来的にも有効性を持つと考える。



#### 令和元年度病院事業会計補正予算

**問** 新しい病院の追加土地購入はいづごろ検討され、用途は何か。

**答** 土地購入の決定は8月半ばくらいであり、不足する病院駐車場15台程度を新たに確保するためである。

以上、各議案とも慎重な審査により原案どおり、可決した。

## 決算特別委員会

9月2、10、17、18、19、24日開催の決算特別委員会には10議案が付託され審査した。

### 主な質疑と答弁

#### ◆一般会計

##### 総務費

**問** 地域内分権推進事業で団体が実施している自主事業についての精査をどのように行っているのか。

**答** 市では中間検査および完了検査を行っている。これらの検査を踏まえ、今後は、継続事業または新規事業について、指示・指導を行っていききたい。

**問** 過去に行った本庁舎周辺のエリアマネジメントはブランドデザインに反映されているのか。また、ブランドデザインと第2次



▲ランドデザイン（例：詫間地区の将来イメージ図）

総合計画の関係性は。

**答** 本庁舎周辺の公的不動産の活用という点で得られた結果はブランドデザインに反映している。また、ブランドデザインは、第2次総合計画のまちづくりマップという位置付けであり、総合計画を補完するものである。

**問** 地域商社づくり事業のこれまでの実績として、収益基盤の構築につながっているのか。

**答** 30年度で事業2年目となるが、現時点では確固たる収入源の確立には至っていない。今後は、その結果を踏まえた事業を展開していきたい。

##### 民生費

**問** 発達障害等支援連携事業で行われている支援の内容は。

**答** 発達障害に関する相談会を実施している。30年度は、9回開催し、30人の相談に応じた。

**問** 不妊治療助成事業について、件数・金額ともかなり減っているが、どのように捉えているのか。

**答** これまでも年度により増減がみられるが、今後とも子どもを望む夫婦の支援のために、制度の周知を行っていききたい。

##### 衛生費

**問** クリアプラザの管理委託料の詳細は。

**答** クリアプラザの清掃・除草・剪定・処分業務で64万8,150円、巡回・地下水等の監視業務で129万6,000円で、計194万4,150円となっている。

##### 農林水産業費

**問** 地域農産物付加価値づくりモデル事業の取り組みは。

**答**（株）四万十ドラマに委託し、主に6次化に向けた商品づくりに取り組んだ。30年度は、6回のワークショップを開催し、延べ120人に参加いただいた。

**問** 有害鳥獣対策について、現状をどのように総括しているのか。

**答** 有害鳥獣対策については、これまで拡充しながら継続して取り組んできた。引き続き、農家や猟友会と協力して実施していく。

##### 土木費

**問** 市道維持管理事業について、市民から評価される維持管理ができているか。

**答** 市民の方からは多くの要望をいただいているが、全ての対応はできてはいない。今後はいただいた要望に応えるべく取り組んでいきたい。

**問** 明許繰越が多い原因は何か。

**答** 昨年度は度重なる豪雨や台風等による災害により、当初の計画通りに事業を執行できない状況であった。

た。今年度は、できる限り繰越しとらないように執行していきたい。



▲平成30年7月豪雨災害により崩落した市道

##### 教育費

**問** 不登校対策教育支援センター運営事業について、不登校になる主な原因と取り組み実績は。

**答** 基本的な生活習慣の乱れにより、夜型の生活になっていることが主な原因となっている場合が多い。なお、30年度は、支援センターへ通った子どものうち半数以上が復学できた。

#### ◆病院事業会計

**問** 永康病院について、NPO法人による経営改善指導の効果は。

**答** 指導を基に見直しを図った結果、診療報酬で月約300万円の増収となったほか、費用としては、診療材料で約250万円、薬品で約600万円の縮減につながった。

以上、各議案とも慎重な審査により原案どおり、認定した。

## 総務常任委員会

7月31日(水)～8月2日(金)

### 議員提案の条例制定について

視察先 東京都墨田区議会

「墨田区子ども読書活動推進条例」を議会提案により制定している。議会提案の条例化が目的ではなく、常日頃の研究成果として条例化が見えてくるというものであった。

### 観光政策について

視察先 東京都中央区

行政の役目が問われるが、「役人の固い頭では出番がない」という説明を受け、専門的ノウハウは既に民間に存在するという視点で取り組んでいるとのことであった。

### 防災対策について

視察先 総務省消防庁

消防団は、団員数の減少と団員の高齢化が進んでいる。国は、学生消防団活動認証制度や消防団協力事業所表示制

度などの施策に取り組んでいる。

### 先端技術を用いた事業展開について

視察先 株式会社つくばウエルネスリサーチ

AIは万能ではなく、あくまでも方法の一つである。うまくAIを活用するためには、現状を熟知したスタッフと技術者との相互連携が重要であるとのことであった。



▲つくばウエルネスリサーチにて

## 市民建設常任委員会

7月22日(月)～24日(水)

### スマート農業について

視察先 長野県伊那市

高齢化に伴う担い手不足の解消や、遊休荒廃農地の縮減などの農業課題への対応策としてスマート農業に取り組んでいる。

具体的には、GPSを活用した農機具や、データ活用の営農管理システムの導入のほか、遠隔操作、監視により農作業の労力軽減、作業の効率化を図っている。

また、自動草刈機実証農地の実地見学を行った。



▲スマート農業の一翼 草刈り風景

### 新規就農支援について

視察先 長野県富士見町

新規就農支援の営農推進係

を設置して10年。

農業で農業を守る取り組みとして、農業を産業化することにより税収を増やし、「福祉・教育」の充実、「人口問題」の解消を目指している。

取り組み前と比べて新規就農者は約5倍の効果。平成29年より定年帰農者の支援開始。

### 性的少数者の権利擁護

視察先 東京都多摩市

性的少数者の人権課題を男女平等参画条例の中で位置付けている。条例を制定することにより、

- ① 条例という法的根拠があることでより強力に取り組める
- ② 市長が変わっても条例は残るため継続的に施策に取り組める
- ③ 条例を基に独自政策を進めることができる、等の効果がある。

条例制定以降の具体的取り組み  
・市職、教職員などの研修の実施

- ・基礎知識庁舎内研修の実施
- ・市内中学3年生への出前授業
- ・出版物毎月6,000部発行
- ・リーフレットを学校向けに作成

・LGBT電話相談を実施  
当面の課題2件、推進課題1件について緊急性が求められ、所管事務調査が生かせるようにしたい。

## 議会広報委員会

8月8日(木)～9日(金)

### 議会広報紙について

視察先 大阪府八尾市議会

「やお市議会だより」は、第14回中核市議会報コンクールで優秀賞を受賞され、基本方針は伝える紙面づくりから伝わる紙面づくりへと分かりやすい紙面を目指している。議会への興味、関心をもっといただくために市議会と高校生プロジェクトをコラボ企画し、表紙に高校生の美術作品を採用、高校生と座談会を実施するなど、高校生の意見を紙面づくりに反映させている。トピックス特集も議決したことが身近な暮らしにつながっていることを伝える記事や、議会に関する豆知識などの記事を掲載しており、議会と市民のパイプ役となるよう、努力している。

視察先 和歌山県和歌山市議会

「わかやま市議会だより」は第14回中核市議会報コンクールで審査員特別賞を受賞され、広報委員会が市民モニターを

委員会では、担当する分野について研究するため、他の先進的な自治体の取り組みを調査し、市政の発展に反映できるよう努めています。各委員会が7～8月に視察した研修内容をお知らせします。

## 教育民生常任委員会

7月22日(月)～24日(水)

### 子どもの発達支援の取り組みについて

#### 視察先 滋賀県栗東市

0歳～18歳対象の「発達支援課」を開設し早期発見・早期対応で切れ目のない支援に取り組む。保健・教育・福祉の連携の中核を担う「発達支援室」は相談事業や幼保の巡回支援を。「たんぽぽ教室」は0～6歳までの遊び等を通じた発達支援を。充実した専門職スタッフに支えられ、人材育成にも力を注ぐ。

### 不登校対策総合プログラムについて

#### 視察先 奈良県大和郡山市

国の特区認定を受け、不登校児童生徒の社会的自立を目指し学校以外の学びの場(学校に戻らなくてよい)を保証する。教育課程を弾力化した学科指導教室(ASU)があり、学習評価はASU作成の調査書で高校受験できる。基本理念は①心の居場所づくり



▲大和郡山市にて

②個に応じた教育課程③ASUで学習評価の実現等10項目を掲げる。希望をもって明日に向かっていけるシステムである。

### ひきこもり支援について

#### 視察先 和歌山県田辺市

平成13年ひきこもり相談窓口を開設し、保健・医療・福祉・教育・雇用等関係者による「検討委員会」を設置。18年間という長年の取り組みは、民間団体・障がい者の会・医師・臨床心理士など支援のネットワークがしっかりしているから。訪問支援や気軽な居場所づくり、農業体験や昼食会等温かく見守る環境づくりが本常に素晴らしい。

## 議会運営委員会

8月5日(月)～7日(水)

### 議場スクリーン・プロジェクトの試験導入について

#### 若者の市政関心度アップの取り組みについて

#### 視察先 石川県加賀市議会

加賀市議会では、市民に開かれた議会実現の一環として、議場にスクリーン・プロジェクトを導入し、市民や傍聴者により分かりやすい議会づくりに取り組んでいる。

一方、「若者の市政への関心度アップ」については、効果的な方法を見出せない状況であり、若者側の意識変革に対する期待が大きい。

### 議会報告会について

#### 視察先 滋賀県彦根市議会

議会報告会については、議会基本条例において年1回以上開催することと規定して実施しているものの、参加者は次第に減少している。対応策として、ワールドカフェ方式



▲近江八幡市議会にて

により実施したが、その効果の検証は未了である。

開かれた議会の一環として、議場コンサート等を実施したが、効果の把握には至っていない。

### 議会報告会について

#### 視察先 滋賀県近江八幡市議会

土曜日の午後、第一部で各常任委員会からの報告、第二部で各常任委員会ごとに市民との意見交換を実施している。

選出し意見交換することで、見やすく親しみのある紙面づくりを目指している。ラジオ放送、テレビ放送等で広報活動し、本会議だけでなく議長インタビューや、会派の紹介、市議会からのお知らせ、フェイスブックへの投稿、デジタルサイネージなどの作業を委託せず、自らの手で作成している。

高校生と意見交換することにより若い層の意見を紙面・議会に反映する努力をしている。また議会だよりを委員会、議会議員自ら、市民に手渡しで配っている。

新しいチャレンジをすることを常に、心がけていることは見習うべきだと感じた。



▲「やまのまち」と「わかやま市議会だより」

※デジタルサイネージ…電子看板

# 学校紹介

## 三野津中学校



### 三野津中の強み!!

三野津中学校では「清纯・協和・自律自励」を校訓に、日々明るく生活しています。授業中は楽しく、部活動では仲間と協力して取り組んでいます。

そんな三野津中学校といえば、ボランティア活動です。ボランティア活動は、週に四回あいさつ運動と清掃ボランティアを行っ



▲朝のあいさつボランティア



▲弥谷寺でのお接待

ています。あいさつボランティアを行うことで、日頃からあいさつを行えるように、あいさつをすることが当たり前だと思身身に付けられるようにしています。実際に三野津中生は登下校時に、地域の方々へのあいさつを積極的に行っています。そして、地域の方々からお褒めの言葉をいただいています。

また、清掃ボランティア

を行うことで、日頃使っている校舎に感謝の気持ちをもちて学校生活を送れるようにしています。また、自分たちが必要と考えた所を清掃することにより自主性、自分で考える力を身に付けられるようにしています。

加えて夏休みにはお遍路さんへのお接待を行い、地域貢献にも取り組んでいます。

さらに、三野津中では授業終了後に黙勤清掃にも取り組んでいます。黙勤清掃を行うことで一日の自分を振り返り、自分を見つめ直す時間になっています。

このように、三野津中は生徒が自ら考え行動することを重視し取り組んでいます。また、今年度からは新たな取り組みを多数行います。仲間と協力し誇れる三野津中を作っていきます!!

執筆 生徒会役員

島田若葉(2年生)

### 三野津ソフトバレーボール大会

写真は第95回三野津ソフトバレーボール大会で、優勝は「ここに倶楽部」でした。ソフトバレーとは、より多くの人々が生涯を通じて楽しむことができる4人制のバレーボールです。ボールが柔らかいので突き指等の心配もなく、誰にでも安全に、容易に行えて、性別、年齢、体力、経験、技術のレベルに応じて初歩的なプレーから高度なゲームまで多様に楽しめるソフトバレーを度やってみませんか。(近藤)



り組みを発展させ、見直す時期に来ていると思います。読者の皆さまのご意見をいただながら改善していく必要があるのです、皆さまのご意見を事務局ならびに議員までお寄せください。(石田)

### 編集後記

収穫の時期も終わり、紅葉の季節となりました。地域の収穫祭、秋祭りや文化祭が行われていることと思います。

さて「地方分権改革の推進」は、地方議会の改革の追い風となり「議会基本条例」が7年前、三豊市でも制定されました。

この間、議会改革を目標として議会報告会の小学校区単位での実施、市政に対する要請書の提出、政務活動費の全額公開など先進的に取り組んできました。

議会広報もこれまでの取



QRコードを読み取ると、市議会のホームページがご覧になれます

#### 議会広報委員会

委員長 市川 洋介

副委員長 石井 勢三

委員 岩田 秀樹

委員 込山 文吉

委員 湯口 新

委員 高木 修

委員 近藤 武



この広報紙は、古紙配合率70%再生紙、また、環境に優しい植物油インクを使用しています。

発行・編集

三豊市議会・議会広報委員会 〒767-8585 香川県三豊市高瀬町下勝間2373番地1

TEL.0875-73-3009 FAX.0875-73-3024 E-mail gikai@city.mitoyo.lg.jp